

No.36

地域と連携した防災訓練（避難所宿泊体験を含む）

- 管内 空知管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 災害発生時における安全・迅速な行動や主体的な行動ができるなどの危機対応能力の育成
- 学校と地域が連携した避難所宿泊体験の実施

■取組の実際

ねらい

- 生徒が自らの安全を確保するために、安全かつ迅速及び主体的に行動することができる危機対応能力の育成を図る。
- 地域住民と連携した計画的な防災訓練や避難所宿泊体験を通して、生徒が災害時の自分の役割等について考えさせる機会とする。

内 容

1 危機対応能力を高める防災訓練の実施

巨大地震の発生を想定し、学校と地域が連携した防災訓練（1泊2日）を行った。

地域住民は、発生から2分後に地震が収まったと想定し、自宅から中学校へ避難した。

生徒は、本校の危機管理マニュアルに従って、各教室から体育館へ迅速に避難し、後から避難してくる地域住民の誘導補助を行ったり、支援が必要な地域住民に援助を行ったりした。

避難完了後に、防災についての意識を高めるため、大学教授による防災に関する講演会を実施し地域住民と生徒が共に学ぶ場を設定した。



【大学教授による防災に関する講演会】

2 防災意識を高める避難所宿泊体験の取組

講演会実施後、生徒と地域住民（希望する小学生を含む）が共に避難所で宿泊し、避難所生活を体験する機会を設定した。

参加した地域住民、教職員、生徒が「生活支援班」「炊き出し班」「訓練班」に分かれ、プライベートスペースの設置や夕食の炊き出し、衛生処理など、組織的に活動するとともに、市の職員による地域防災に関する講話やAED講習会を実施した。

これらの取組を通して、生徒が地域住民との交流を深めたり、地域の防災や災害時のボランティア活動等の大切さについて理解を深めたりした。



【AED講習会】

成果と課題

- 避難所宿泊体験を通して、生徒の防災に対する意識を高めるとともに、生徒と地域住民との絆を深めることができた。
- 本取組の成果を広く周知するとともに、学校と地域が連携した安全教育の一層の充実を図る必要がある。